

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400125		
法人名	社会福祉法人 日王福祉会		
事業所名	グループホーム くぬぎの里		
所在地	〒822-1202 福岡県田川郡福智町神崎1956-114 TEL0947-22-0280		
自己評価作成日	平成 23年07月25日	評価結果確定日	平成23年09月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームくぬぎの里では、運営理念(地域と共に一人一人が笑顔でノビノビとした暖かい生活を・・・!)を基に明るい雰囲気を作ることで個人個人に合わせたケアや生活リズムを大切に、レクリエーション・ラジオ体操・機能訓練などを毎日行い入居者様がノビノビと生活出来るように日々取り組んでいます。今後も、季節毎の行事や外出支援を行い、笑顔で共同生活を過ごして頂けるように努めて行きたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「くぬぎの里」は緑の森の中に、町営グラウンド、公園、温泉センターと隣接し、広い敷地に囲まれ、デイサービスセンター併設の、グループホームである。玄関から、廊下を通りリビングに行くと、利用者職員が手づくりの貼り絵や、オセロゲームを、時間の立つのを忘れるくらいに熱中し、立派な作品として、壁に掲げる様子は、楽しそうである。開設10年目を迎え、管理者と職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、生きがいを見つけ、ホームで穏やかに、のびのびと暮らし続けることで、家族から深い、信頼を受け、利用者本位の介護サービスを実践している。地域の行事や中学生の体験学習を受け入れ、地域密着型事業所として、交流が始まっている。また、訪問看護を取り入れ、利用者の健康状態をきめ細かく観察し、かかりつけ医と連携しながら、万全の態勢を目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年08月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で決めた理念を玄関等に提示し、全職員が共有し合い実践に取り組んでいる。	理念を申し送りノートの表紙に大きく書き、申し送りの度実践出来ているか職員間で確認している。職員は利用者の自主性を尊重し、常に笑顔であせらずゆっくりありのままの姿を受け入れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元、福智町の文化祭や敬老会、地元地区の行事に参加し、文化祭に入居者様が作った作品を展示し地域の一員である事の意識付けを行っている。	地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、地域の行事に参加する等、つながりを大切にしている。中学生の体験学習受け入れや保育園児を招いてのクリスマス会は利用者へに活気と潤いを与える結果に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、年間行事の報告や認知症ケアに関わる事例報告などを行い、地域に情報を広めて頂くように依頼している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、福智町役場福祉課課長、地元地区の区長、教育委員、ご家族代表、入居者代表で構成している。運営推進会議は2カ月に一回行い、ホーム内の報告やご家族からの意見を頂き情報交換している。	利用者、家族、町役場福祉課長、区長、教育委員をメンバーに開催している。ホームの取り組みや状況報告の他に要望や取り組みに対する助言等を積極的に聴いている。メンバーからの情報をもとに、子供山笠がホームを訪れる等、運営に反映させているものも多い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福智町の行事に積極的に参加し、行政担当者や電話や直接会って話す機会を設けている。	町主催の行事やふれあい塾への参加や、温泉等の町立の施設の利用等、連携を図りながらサービスに取り入れているものも多い。日頃から、担当課職員にホームの状況を伝えたり、相談をする等、サービスの向上に向けた意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会で定期的に身体拘束の勉強会を行い、実践に取り組んでいる。	身体を拘束しないケアに取り組み、玄関や数箇所の出入り口には鍵を掛けず、利用者の行動を制限することなく安全が確保できるようにしている。また、隣接するデイサービスとの連携を密にし、安全対策に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、虐待防止に取り組んでいる。また、入居者様にストレスを溜めない様に明るく楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、対応が必要な入居者様がいる場合は、アドバイスや支援を行っていきたい。	利用者、家族の必要に応じ、いつでも説明できるよう資料を揃えと共に、制度に関する学習会を開催し、理解を深めている。現在制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等に入居者様の権利や義務を分かりやすく明示している。入居時に時間を使い、説明や同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に福岡県やホームの苦情相談窓口を記載し提示している。また、ホーム内に意見箱を設置し入居者様やご家族様からの訴えがある場合は、申し送りやミーティングで話合う様にしている。	家族は、利用者を一緒に支えるパートナーとして情報交換を密にし、情報を共有するようにしている。日々の関わりの中で得た情報を伝え、家族からも積極的に意向を聴いている。出された意見はミーティング等で話し合い運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で話し合い、管理者はスタッフの要望や意見を聞く様にしている。	月に一度の全職員参加の会議では活発な意見交換がなされ予定時間をはるかにオーバーすることも多い。管理者は、職員の意見や気付きを積極的に聴き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁にホームに来ており、入居者様と日々過ごしている。スタッフの業務態度を把握し、要望や悩み等を聞き向上心を持って働けるように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は高齢者が好きな人、その他の条件等は無い。管理者は、スタッフの悩みを聞きやすくスタッフが生き生きと仕事が出来様に心掛けている。	職員の採用は、性別や年齢などの制限は設けていないが、高齢者が好きな人を採用している。休憩室やロッカーが完備され、休憩時間も交代でとっている。資格取得を目指す職員には勤務のローテーションを考慮するなどの配慮がなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングにてスタッフと話し合い、入居者様に対する言葉遣いや態度についての注意点を話している。また、人権ビデオ観賞をしながら、勉強会も行っている。	利用者の人権を損ねることがないように、ミーティング等では常に利用者に対する言葉遣いや態度などについて取り上げ、振り返りをしている。ホーム内での学習会や町役場の職員による人権学習も実施している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会や勉強会に管理者やスタッフが参加し、研修を受け質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や他町のグループホームと定期的な交流の場を持ち、情報交換やサービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と良い信頼関係を築けるように、本人の思いや話をよく聞き、要望や気持ちを受け止める様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様と同様に、良い信頼関係を築けるように、ご家族様の思いや話をよく聞き、要望や気持ちを受け止める様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の介護計画書作成時には、入居者様とご家族様の要望を基にどの様なサービスが必要かを検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、ご家族様の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づいた事の情報共有に努め、入居者様と一緒に支える為にご家族様と同じ思いで支援している事を伝えている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事の案内をするなど、入居者様と一緒に過ごしてもらう機会を作っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の行事等の参加を促し、馴染みの人との関係が途切れない様に努めている。	理・美容師の訪問はあるが、馴染みの関係が途切れないようにかかりつけの理・美容院への送迎の支援もしている。利用者が、これまで関わってきた行事への参加を促したり、友人、知人の来訪も歓迎し、墓参り等に職員が付き添う事もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーション、日常生活動作訓練時にコミュニケーションを持ちながら支え合う関係を築ける様に促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所に関しては、死亡や長期入院が殆んどであり、利用終了後の関係は保っていない。今後、このような事例があれば遊びに来て頂くなど継続的な関係を保っていききたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様の意向は、個人記録に記載し、入居者様の思いをスタッフ間で共有している。	利用者に担当職員を決め、1対1で個別に話を聴く個別ケアの時間を日課に入れる等、利用者の意向を大切に受け止めるよう努めている。また、利用者の意向を確認する場合は、複数の選択肢をあげ選んでもらうなど、意向が表出しやすいよう工夫して働きかけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様との会話の中で、プライバシーに配慮しながら情報を頂き、スタッフ間で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムの把握に努め、日々の状態に配慮しながら生活の支援を行い、出来る事を見つけ伸ばす様に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が自分らしく暮らせる様に、スタッフ等で検討し具体的な介護計画を作成している。	担当職員が、日々の関わりの中で得た利用者の情報や、運営推進会議や家族の来訪時に得た家族の情報などを検討し、計画に反映させている。また、利用者の状況の変化や職員の気づき等を記録した個人記録をもとに、定期的に計画の見直しをし、現状に即した計画になるよう作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態の変化やスタッフの気づきなど個人記録に記載しスタッフ間で共有している。個人記録を基に介護計画の見直しを実施している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋がある場合はショートステイを受け入れている。ショートステイ後、自宅生活困難時はグループホーム入所を受け入れ穏やかな住み替えの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしを続けられる様に、民生委員や消防署、教育委員等との意見交換を行う場を設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の意向を大切にしながら、かかりつけ医の受診を行っている。受診内容は、個人記録に記載しスタッフで情報を共有し、状況に応じてご家族様へ報告している。	利用者、家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診支援をしている。結果は家族に、随時報告している。訪問看護師による、週2回の健康管理や医療機関との連携など、医療や看護体制も整えられている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週に2回看護師を派遣して頂き、入居者様の状態の把握やアドバイスを頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が出来る様に、入院されている方には週2回の面会や身の周りのお世話をし、ご家族様や医療機関とも情報交換を行い、早期退院支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応にかかわる方針を入居者様やご家族様に説明し同意を得ている。	重度化した場合や、終末期の対応について、ホームの方針を明確にした指針を作成、し利用者、家族に説明し同意を得ている。利用者の状態に変化が見られた時は、その都度、家族の意向を大切に、確認しながら関係者間で話し合い、重度化に向けた方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成すると共に、事故発生時に備え定期的に勉強会を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力して頂き避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方など行っている。また、地元消防団とも協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を実施し、夜間を想定した手順の確認もしている。管理者は地域の消防団員であり必要時、協力が得られる体制になっている。隣接するデイサービスや高齢者支援ハウスとの協力関係も確認している。非常用備蓄はデイサービスで一括保管している。	非常災害時は、想定外のことも起こりうる為、食料や飲料水や毛布等の備蓄をホーム内で完備することが望まれる。更に、運営推進会議の場を利用した避難訓練の実施等、訓練に地域の方々の参加が得られやすい環境作りも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや朝礼にてスタッフの意識向上を図ると共に、個人情報漏れのない様に注意を促している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないよう、常に利用者の自己決定を大切に支援している。入居時に個人情報に関する説明をし、同意書を得ると共に写真を掲載する場合は、事前に利用者、家族に承諾を得ている。また、個人の記録は人目に触れぬ所に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側で決めた事を押しつける様な事はせず、複数の選択肢を提案し入居者様が自分で決める場面を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態を配慮しながら、希望や意向を把握し本人の気持ちを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様やご家族様の希望を聞きながら、馴染みの美容室等に行ける様に送迎を行っている。また、理美容室の方に訪問して頂ける様に連携を取っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様とスタッフがテーブルを囲んで楽しく食事が出来る様な雰囲気作りを大切にしている。	週に一度、利用者の嗜好を考慮しながら職員が輪番制で献立を作成し、食材の調達から調理、後片付けまでを利用者の出来る範囲で一緒にしている。職員も一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら、常に目配りをしながら支援をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を個人記録に記載し、個別の食事量も毎日記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、入居者様の能力に応じたケアを行っている。また、就寝時には義歯を洗浄液につけ清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄状況を把握し、トイレ誘導を行う事で気持ち良く排泄が出来る様に支援している。	車椅子使用の利用者が半数を占めるようになり、オムツを使用している利用者も増えているが、トイレでの排泄を大切に、さり気なく声かけをしながら、トイレに誘導している。全てのトイレは車椅子対応で、壁には手摺がつけられている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、毎日の排便状況や水分摂取量のチェックを行っている。また、食材の工夫や運動を働きかけ自然に排便が出来る様に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定出来る入居者様は、希望の時間に入浴をして頂く様にしている。また、希望される入居者様には、近隣の温泉に行き入浴を楽しんで頂く様にしている。	週3回の入浴日は決めているが、利用者の意向や状況に応じて柔軟に対応している。浴室壁には手摺が取り付けられ、車椅子での入浴も可能である。近隣の温泉入浴を、希望する利用者には同行する等の支援もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様に努めている。入居者様の体調や希望を考慮し、ゆっくり休息がとれる様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個人記録に綴り、スタッフが内容を把握出来る様にしている。また、服薬時には本人に手渡し、きちんと服用出来ているか確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮して頂ける様に、仕事をお願いし感謝の気持ちを伝える様にしている。また、個別レクで外食や買い物を行って頂き気分転換が出来る様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じ、買い物や外食、散歩やドライブ等に出かけている。また、年間行事を通して色々な所に出かけている。	毎朝、車椅子利用者も一緒に散歩をし、季節ごとの花見、紅葉見物や地域の催し物見物など、1年間を通じて、外に出る機会を多く計画している。利用者と担当職員が個別ケアの時間を使って、外食や芝居見物、買い物に出かけるなどの取り組みもしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力を得て少額のお金を持っている入居者様もいる。買い物のお金は本人に払って頂く様に手渡すなど工夫を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人等に電話しやすい雰囲気作りや入居者様より希望がある場合は、電話を掛ける支援を行う。また、会話が他者に聞こえない様に電話の設置場所を工夫している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、熱帯魚が泳ぎ適度な水音が聞こえ心地よく過ごせる様にしている。また、料理を作る時の匂いや食器を洗う時の音など、家庭的な雰囲気作りに努めている。	広い敷地の中に建つホームは、静かで自然の風が心地よい。玄関先には季節の花を飾り、掃除の行き届いた廊下の壁には利用者と職員と一緒に作った作品や、楽しそうな利用者の写真が飾られている。共用スペースのいたるところにソファが置かれ、ゆっくり寛ぐ事が出来るようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下、自室に椅子やソファを設置し一人でゆっくり過ごしたり、他の入居者様とゆっくりくつろげるスペースを作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や、入居者様の馴染みの家具等を持って来て頂き、本人やご家族様と一緒に配置を考えるなど、居心地良く過ごして頂ける様に配慮している。	居室は窓が大きくて明るく、押入れとクローゼットを兼ね備えた大きめの収納スペースが設置され、どの部屋もすっきりと片付いている。利用者の、馴染みの家具が置かれた部屋には、家族や友人と、ゆっくり自由な時間を過ごす事が出来るように、ソファが置かれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を掛け、自室の分からない入居者様には、声掛け誘導を行っている。また入居者様に、混乱や失敗が生じた場合は、その都度スタッフで話し合い、本人の不安を取り除き自立した生活が送れる様に努めている。		